
ロシア史研ニューズレター

ОБЩЕСТВО ИССЛЕДОВАТЕЛЕЙ ИСТОРИИ РОССИИ

No. 125

April 2022

2022 年度大会は 10 月 15 日～16 日 ハイブリッド開催

自由論題・パネル報告募集中

【事務局より】

今年のロシア史研大会は、10月15日(土)、16日(日)の二日間、法政大学市ヶ谷キャンパスを会場とした、対面とオンライン両方のハイブリッド開催を予定しております(新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインのみの開催に変更する可能性があります)。共通論題提案は既に締め切られておりますが、自由論題報告・パネルの応募締め切りは4月30日(土)ですので、題目、概要を添えて事務局濱本 (mhamamoto (at) osaka-cu.ac.jp ※(at)を@に置き換えてください)宛にふるってご応募ください。

また大学院生等による自由論題報告に対する交通費補助制度を設けております。規程は以下の通りです。

＜大学院生等に対する大会報告時の交通費補助制度＞ 例会交通費支給規程を準用し、大学院生等会員の研究活動を資金的に支援するため、遠方の会員(学振研究員を除く大学院生・非常勤)の自由論題報告に対し、交通費実費の片道分(上限有)を補助します。ご希望の方は報告申込のメールに「交通費補助希望」と記入してお送りください。

＜大会時の託児サービス＞ 本年は10月の新型コロナウイルス感染状況が予測できず、準備が困難なため、会場内託児は設置しないことになりました。託児補助(自宅などでのシッター利用に対する助成)を実施します。詳細は後日、改めてお知らせいたします。

【委員会議題】

主な議題は以下のとおりです。

2021年12月10日 Zoom ミーティング
・委員の補充
・大会開催校と開催方法

2022年1月～3月メール会議

- ・例会企画
- ・荒田洋先生、坂中紀夫先生のご逝去
- ・日本学術振興会賞推薦依頼
- ・ウクライナ情勢に関連した諸声明、声明案

2022年3月31日 Zoom ミーティング

- ・共通論題と開催方法、教室など大会関連
- ・JCREES 幹事が各会 2 名となる場合の幹事の選出
- ・JCREES とスラブ・ユーラシア研究センター共催セミナーの企画・選考委員の選出
- ・雑誌の大会特集号、雑誌の J-stage 掲載までの期間
- ・意見投稿の場
- ・修士課程院生の報告と形態
- ・ハラスメント規定

【坂中紀夫先生追悼文】

中野幸男

長年同志社大学で教鞭を執られていた坂中紀夫先生が 2021 年 12 月 24 日に永眠されました。享年 40 歳でした。昨年 8 月より病床にあったのですが年末に亡くなりました。坂中先生は生前ロシア文学会と並び、ロシア史研究会にも会員として参加されていました。今回坂中先生についてのロシア史研究会に向けての追悼文という話をいただきましたので、同志社大学の同僚の一人として書かせていただきます。

以下に坂中先生の簡単な経歴を書いておきます。坂中先生は 2004 年 3 月に神戸市外国語大学外国語学部ロシア学科を卒業後、2007 年 3 月に同大学院外国語学研究科ロシア語学専攻修士課程を修了されます。同年 4 月に神戸市外国語大学大学院文化交流専攻博士課程に進学されました。同志社大学では 2010 年より教壇に立ち、ロシア語教育に携わっていました。専門分野としてはロマン・キム研究、ロシアにおける探偵小説の研究で特に知られていますが、ドストエフスキーなどの 19 世紀文学に関する研究も発表されています。2014 年 3 月には神戸市外国語大学より「Φ.M.ドストエフスキーにおける「手記」形式作品の自己言及性について：『未成年』、『作家の日記』試論」にて博士号を取得されています。

坂中先生はロシア史における主な関心としては「ナショナリズム論(19・20 世紀ロシア・ナショナリズム)」を挙げているようです。ロシア語で書かれた修士論文も「ドストエフスキーとナショナリズム」(Достоевский и национализм)というテーマです。手元の資料では、2008 年 4 月に発表された「身分制と支配形態から考察する近代ロシアのナショナリズム」という論文で、ニコライ 1 世治下で文部大臣を務めたセルゲイ・ウヴァーロフの「ナロードノスチ」と教育政策について述べています。また 2009 年 10 月にはロシア史研究会で「セルゲイ・ウヴァーロフの思想の変遷：「ナロードノスチ」概念の包摂性について」という発表をされています。

坂中さんとは関西ロシア文学会やロシア文学会、さらには職場の同志社大学の講師控室で度々会い、コロナ前には学会後の飲み会で同世代なのでよく話をしていました。温かな人柄で学生にも好かれていたようです。最後に話したのは職場での簡単な挨拶を除くと、関西ロシア文学会の後の飲み会だったかもしれません。授業にはあまりス

ーツを着て臨むタイプではなく、いつ会っても学生と見間違われそうな普段着で授業も出ていたようです。飲み会でも顔を赤らめて、人の話を笑いながら聞いていた様子が思い出されます。本人の研究における論の緻密さや柄谷行人をはじめとする日本の批評家の著作への造詣は、死後に彼の友人や恩師との思い出話や、彼の研究を読んでいく中で知りました。彼の博士論文を読んでもみると、ドストエフスキーの『未成年』と『作家の日記』における自己言及性の問題について論じているのですが、法月綸太郎や笠井潔のミステリーから始まり、柄谷行人や東浩紀、見田宗介、大澤真幸の言及や引用が見られるところも、彼の評論への関心が出ていたように思われます。とりわけ大学院の指導教官であった丹生谷貴志の影響が強かったのではないかという話もありました。一方では Игорь Волгин, Людмила Касаткина, Gary Saul Morson や Robert Belknap のようなドストエフスキー研究も盛んに取り入れていました。

博士号を取得後は、同志社大学における嘱託講師としても安定したメンバーとして定着し、国際学会におけるロマン・キム作品についての発表など、研究においても彼自身これからという時期だったのですが、40歳という若い年齢で亡くなっています。コロナ禍の授業は他の講師同様に彼自身やりにくかったのではないかと思います。現在ではコロナ禍での授業も数年経ち、対面授業も増えています。一方、彼の死から数ヶ月後に始まったウクライナの問題は彼の関心であった「ナショナリズム」の問題にこれまでになく焦点を当てています。ロシアを愛し、「ナショナリズム」について考えた彼が現在のウクライナの問題をどのように考えるのかはわかりません。ロシアのナショナリズムやロシア探偵小説に関する彼の研究は今後もデータベースの中に生き続けます。彼と同じ問題意識を持つ後進の研究者には続いて影響を与え続けていくのだと思います。

【献本について】事務局まで以下の献本がありました。

帯谷知可『ヴェールのなかのモダニティ:ポスト社会主義国ウズベキスタンの経験』東京大学出版会、2022年

貝澤哉、杉浦秀一、下里俊行(編)『〈超越性〉と〈生〉との接続:近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて』水声社、2022年

加藤絢子『帝国法制秩序と樺太先住民』九州大学出版会、2022年

本田晃子『都市を上映せよ:ソ連映画が築いたスターリニズムの建築空間』東京大学出版会、2022年

ロシア史研ニューズレター
第125号 2022年4月20日発行
編集・発行 ロシア史研究会委員会
(長縄宣博・松本祐生子)
〒558-8585
大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪市立大学文学研究科濱本研究室気付
